

ハゲタカジャーナル ダメ！絶対！

その雑誌
ハゲタカ
かも！？

ハゲタカジャーナル(Predatory journal=粗悪学術誌)とは、査読誌であることをうたいながら、著者から論文投稿料(APC)を得ることのみを目的として、適切な査読を行わない、オープンアクセス形式の粗悪なジャーナルです。非常に悪質で、手口も巧妙です。

ご自身や、指導する学生・若手研究者の大事な研究キャリアを守るため、ハゲタカジャーナルには絶対に投稿しない、関わらないようにしましょう。

ハゲタカジャーナルに投稿すると...



信頼・評価の低下

掲載誌への不信から著者自身の信用が損なわれ、所属機関の評価も下がります。



投稿料トラブル

論文掲載後も、さまざまな名目で料金を請求されることがあります。



再投稿ができなくなる恐れ

投稿撤回が認められず、書いた論文が流れてしまうことも。

ハゲタカジャーナルの特徴

査読期間が短い

ハゲタカジャーナルの多くが極端に短い査読期間となっています。査読の迅速さを売りに、業績を急ぐ研究者の関心を引こうとします。

編集責任者が不明確

エディターが明確でない、専門分野の研究者でない、有名な研究者のプロフィールを勝手に掲載している、などのケースがあります。

IFを謳っているが

目立つところにインパクトファクター(IF)が記載されているけれど、クラリベイト社が公表している正式なIFではないことが多々あります。

そのほかにも

ジャーナルの名称やロゴが有名ジャーナルに酷似している、サイトの作りが稚拙で不自然な点が散見される、などのケースもあります。

ハゲタカジャーナルかどうかを見分けるポイント

チェックリスト・ホワイトリストを確認する

Think Check Submit ! THINK ✓ CHECK ➔ SUBMIT

信用できるジャーナルを選ぶためのチェックリスト。約30のチェック項目が提示されている
<https://thinkchecksubmit.org> 日本語版 <https://thinkchecksubmit.org/japanese/>



Directory of Open Access Journals (DOAJ)

厳格な審査を通過したOAジャーナルを収録 <https://doaj.org>



Web of Science

収録基準を有する文献DB <http://mjl.clarivate.com>



ジャーナルの公式サイトを見る

自身で公式サイトを検索し、エディターのプロフィールを確認してみましょう。過去の掲載論文を読んでみて、質が担保されているか確認するのも有効です。

先輩や同僚に評判を聞く

先輩・同僚や近い分野の研究者に、そのジャーナルの評判を聞いてみましょう。また、ジャーナルの質について懸念する声がないか、SNSなどもチェックしてみましょう。

残念ながら、ハゲタカを見分ける絶対的な基準は存在しません。

ご自身で情報を集めて慎重かつ総合的に判断することが重要です。

【お問合せ】 附属図書館eリソース課 <https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/contact-form>
<https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/ja/services/open/gold/pj>

